

## 相談ワーキング

リーダー：相談支援事業所ひかり

## 1. 『なは障がい者プラン』該当項目

基本目標2 施策の方向3 自立した生活の支援・意志決定支援の推進

具体的施策(1) 相談体制・相談支援機能の充実P.32～

## 2. 開催実績

- ・第1回 令和5年4月25日(火) 13:30～15:30 那覇市役所にて
- ・第2回 令和5年5月16日(火) 13:30～15:30 那覇市役所にて
- ・第3回 令和5年6月20日(火) 13:30～15:30 那覇市役所にて
- ・第4回 令和5年7月18日(火) 13:30～15:30 那覇市役所にて

## 3. 活動内容

毎回『なは障がい者プラン』をもとに、相談ワーキングの目的を共有し開催している。

- ① 支援を通じて明らかになった課題のうち、委託相談事業所に共通する課題等を那覇市障がい者自立支援業議会にて、報告、協議事項とすること。
- ② 各ワーキングで協議された内容のうち、那覇市障がい者自立支援協議会にて必要な事項を整理、提言すること。
- ③ 困難事例等の検討、調整に関すること。
- ④ 地域の関係機関によるネットワーク作りに関すること。
- ⑤ 地域の社会資源の開発・改善等に係る協議会に関すること。
- ⑥ 権利擁護等に係る協議に関すること。

## 【議題・確認・報告等】

\* 『居住サポート事業』 相談件数確認

| 月  | 当月相談件数 | 当月申請件数 | 物件探し依頼件数 |
|----|--------|--------|----------|
| 4月 | 19     | 6      | 63       |
| 5月 | 19     | 6      | 67       |
| 6月 | 13     | 9      | 64       |

\* 『基幹相談支援センター等機能強化事業』の動きについて共有

⇒医療ケア的児等協議の場、地域生活支援拠点等の整備について など

\* 地域生活支援センターグットモーニング(I型)の活動報告

⇒各種教室、利用者から希望を募り屋内外のイベントを企画し開催。日中活動、余暇支援、居場所支援等を行っていること など。

\* 『事例検討』・・・他機関連携

⇒ひきこもり専門支援センター(県総合精神保健福祉センター内)より、委託相談との連携、アドバイス等を求めたいと相談があったケースについて、事例の共有、再アセスメント、支援の手立て、その他必要な専門機関等について検討を行った。

※『市町村における地域移行支援・地域定着支援に係る事例・取組の報告（1市町村1事例）』について沖縄県より依頼

⇒医療・保健・福祉・地域の多職種他機関との連携などを通じた好事例や課題の残った事例を振り返り共有することで、障がいを持つ方々の「意思決定」を支援し希望する地域生活を支える、関係機関との連携で支援者が抱え込まない「支援者支援」の体制づくり、わがまちの「地域診断」、「社会資源開発」の視点、相談支援専門員の相談支援の質の向上を目指すこと、参考となる事例の蓄積などが目的とされていることを共有した。

また、『住まい・暮らしワーキング』にて、各委託事業所から提出された事例から1事例を選択し、再アセスメント、事例を深めた後に取りまとめ提出予定。

#### 【スーパービジョン（グループ）】

委託相談には、支援者を支援する『スーパービジョン』の役割が求められている。また委託相談事業所は多種多様な問題・課題を抱えているケースの相談支援に行き詰まることも多々ある。今年度より『支援者支援』に有効な手法とされる『スーパービジョン』の習得を目標に、『グループスーパービジョン』を取り入れた。

「事例提供者」の困り感に『グループ（委託相談）』で寄り添うスキル、建設的な意見等を出し合うスキル、提案・支援のアイディアの提供など、スーパービジョンのスキルの向上等を目指していく。また「事例提供者」の視点や価値観が広がり、気づきや学びが得られ、相談支援のヒントを持ち帰ることが出来ることで、支援に向き合う意欲と動機づけが向上されるよう、『スーパービジョン』のスキル向上を目標として取り組んでいく。

#### 4. 特定相談支援事業所連絡会：活動内容

『なは障がい者プラン』に基づき、相談支援事業所間の交流及び相談援助技術の向上を図る場として開催。

相談支援事業所が困った時などにお互いに支え会える、連携できる、情報交換ができる体制作りを目指している。

相談支援専門員は各種福祉系国家資格所持者の他、ヘルパーや指導員など直接援助の実務経験者など、それぞれに専門分野や得意分野などスキルに違いがある。特に精神障がい者支援においては、支援経験が少なく、障がい特性理解や対応方法がわからず、相談支援に行き詰まり苦慮していることが課題となっている。

今回、那覇保健所から協力を得て、相談支援専門員のスキルアップ、相談支援の質の向上を目的とし研修企画を行った。

#### 【開催実績】

第1回 令和5年7月26日（水） 14：00～16：00

講話内容：統合失調症及び発達障害の理解と対応について

講師：医療法人社団 輔仁会 田崎病院 院長 島袋盛洋先生

※那覇市保健所の地域生活支援促進事業「地域生活支援促進研修会」の協力に基づき開催

参加者： 18か所、 39人

相談支援事業所（市内及び委託）、オブザーバー参加（浦添基幹相談）  
那覇保健所、障がい福祉課、南部圏域コーディネーター

講話の感想：

- 精神科病院との連携のハードルが低くなった感じがした。
- 地域からも病院と積極的に連携したいと思った。
- 支援のモチベーションが上がった。
- 先生の話から、その人の将来に希望を持って接しているということで、私もその先の未来があかるいんだということを伝えて行けるような支援、相談員でいたいと強く思った。
- 統合失調症に対する適切な知識を持つことが病状を安定させることにつながるのだと勉強になった。
- 支援者の関りを増やし、定期的な通院連携アプローチは患者の安定に必要なんだと感じた。
- 先生の「その人の人生が少しでも幸せになれば」と考えてサポートすることが大切という話を聞き、改めて私も利用者のためにチームで頑張りたいと感じた。
- 精神障がいのある利用者、ご家族との関わりについて学べる機会になって、とても良かった。
- 医療と連携をしながら地域支援をしていけたらと思った。  
など。

## 5. 今後の方向性や目標

『なは障がい者プラン』の基本目標を常に確認し合いながら、障がいを持つ方々の希望する地域で生活し続けることに寄り添い、支えるための相談支援のスキルの向上を目指して、特定相談支援事業所間の交流、『支援者支援』『人材育成』の視点を大切に、相談ワーキング及び特定相談支援事業所連絡会を継続して行う。

《具体的な内容》

\*相談ワーキングを中心に各ワーキングと連携を図る。

\*事例検討

- ・委託相談員で輪番で事例を提供し、『スーパービジョン（グループ）』を行う  
⇒スーパービジョンの体験を積み上げ、特定相談支援事業所を支えるスキルを向上を目指す
- ・特定相談支援事業所や多職種他機関と上手く連携できた事例を振り返り共有する  
⇒各種関係機関の専門性の理解、役割分担や連携方法を事例を通して学ぶ
- ・地域から寄せられる対応困難事例に寄り添い、必要に応じて事例検討を開催する  
⇒再アセスメント、見立てや手立てを一緒に検討をすることで、困り感を抱えている支援者を支える『支援者支援』、気づきと学び、支援に向き合う意欲を支える『人材育成』のスキル向上を目指す

\*特定相談支援事業所連絡会の運営（3回開催予定）

- ・ワーキング運営会議やアンケートなどを通して、連絡会のテーマを決めて行う。

## 資料2

- ・相談支援専門員間の横の繋がり、顔の見えるネットワークを構築することで、相談支援専門員が悩みを抱え込まない、バーンアウトしないよう、お互いに情報交換や助言等を行える相談支援体制づくりを目指していく。

## 子どもワーキング

リーダー：さぼーとせんたーi

## 1. 『なは障がい者プラン』の該当項目

基本目標2 施策の方向2 療育と教育の充実

具体的施策(1) 療育・保育・幼児教育の充実 P.29

具体的施策(2) インクルーシブ教育システムの推進 P.30～

基本目標2 施策の方向3 自立した生活の支援・意思決定支援の推進

具体的施策(1) 相談体制・相談支援機能の充実

具体的施策(3) 障害のある子どもに対する支援の充実

## 2. 開催実績

## 第1回 障がい児通所事業所連絡会

・日時：令和5年5月17日(水) 10:00～12:00

・方法：ZOOMにて開催

・参加事業所：36事業所(児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問)

## 《目的》

- ・「那覇市発達障害者サポート事業」の取り組みやティーチャーズトレーニング、ペアレントトレーニングの実施状況と、北部圏域で取り組んだティーチャーズトレーニングの実践報告を行った。ティーチャートレーニングを通して、子どもへの対応方法や保護者とのコミュニケーションに変化が起きることについて共有することで、支援者の支援力の向上を目指す。
- ・児童通所事業所が支援に対して感じる課題の共有や情報交換の場、横の連携を目指す。

## 《内容》

- ① 『那覇市発達障がい者サポート事業とティーチャーズトレーニングについて』  
講師：小浜ゆかり
- ② 『ティーチャーズトレーニング～北部地区での取り組み報告～』  
講師：こども発達サポートポップ 吉田 剛氏
- ③ 前半の講義を踏まえてグループワークを実施。感想や気づきの共有を行った。
- ④ 全体での共有

## 《まとめ》

- ・「大人が変われば子どもが変わる」という感想もあり、また、同じ通所事業所の支援者からの実践報告というところで、具体的な事業所内での変化を聞き、似たような困り感を抱く支援者からティーチャーズトレーニングへの期待の声が多くあり、支援者育成の手立てについてニーズが確認できた。事後アンケートにて、13箇所の児童発達支援、放課後等デイサービス事業者より、ティーチャーズトレーニングの受講の希望が確認できたため、9月～開始できるよう調整を進めている。
- ・実践報告を通して業務の振り返りができ、その中で「保護者と子どもの特性の共有の仕方に難しさを感じている」という声もあり、保護者支援についての難しさを感じる事業所も多くあった。実践報告やグループワークを通して、対応方法などを共有することができていた。

- ・個別支援計画の立て方、関係機関との連携の仕方についてもグループワークを通して共有することができていた。

### 第1回 子どもワーキング

- ・日時：令和5年7月6日（木）10：00～12：00
- ・場所：那覇市役所 1001A B会議室にて
- ・参加機関：那覇市地域保健課（1名）、こどもみらい課（2名）、学校教育課（1名）保護管理課児童自立支援員（1名）、子育て応援課（1名）、こども教育保育課（1名）、こども発達支援センター（2名）

#### 《目的》

- ・発達障がいのある子や発達が気になる子の支援に関わる各分野の関係機関等との課題の共有を行い、「発達」を支援する関係機関のネットワークづくりや支援体制整備を行うため。

#### 《内容》

- ① 「発達の気になるこども相談窓口のご案内」の内容の完成に向けて
- ② 事前アンケート（添付資料1）から上がった那覇市の課題について共有した上で、その解決に向けた方法についてグループワークで検討（保護者支援・支援者支援）
- ③ 全体での共有

#### 《まとめ》

- ・那覇市の子どもに関係する各課で課題を共有することで、支援の方向性や課題解決に向けての体制づくりに取り組む意識が高まってきた。支援者支援としては、各課で研修等取り組んでいるが、なかなか支援者のスキルアップや支援の共通認識ができていなかったりする。保育士や教員など身近に子どもたちと関わる支援者が子どもの特性を理解した上で関わられるような体制づくりを関係機関と連携しながら構築する必要がある。保護者支援としては、発達が気になる子どもの保護者に「子どもの特性や困り感について共有」する時の伝え方やタイミングが難しいとの課題があった。また、診断がついてもその後の具体的な支援に結びつかず何の手立てもないままに本人も保護者も困っている状況が続くことも課題に上がっていた。子ども達と関わる保育、教育、福祉の支援者が子どもの特性を見立てる力や、保護者支援ができる力を育てていくための人材育成が必要。

## 3. 今後の方向性や目標

### 《児童通所事業所連絡会》

今年度の取り組みとして、こども発達支援センターと連携し、通所事業所のスキルアップを目指していけるように体制を作っていく。今後の予定として、研修やティーチャーズトレーニング実施に向けて調整を行っている。継続的に研修やティーチャートレーニングトレーニングを実施することで支援の質の向上と事業所間の連携強化につなげていきたい。

### 《子どもワーキング》

「発達の気になるこども相談窓口のご案内」の最終確認を行った。それぞれの窓口で丁寧に相談を聞き、必要な支援につなげていけるような連携体制を取れるように、活用・周知を行っていく。

## 資料2

また、今回、各課で取り組んでいる研修について情報を共有したので、それぞれの研修にオブザーバー参加をできるようにしたり、ワーキングメンバーで研修の企画をしたり、定期的な事例検討を行うことで支援者支援の体制づくりをしていきたい。

## 就労ワーキング

リーダー：障がい者相談支援センターすこやか

### 1. 『なは障がい者プラン』該当項目

基本目標3 施策の方向1 雇用・就業等の支援

具体的施策(1) 一般就労への移行支援・福祉的就労に対する支援 P.43～

### 2. 目標

障がいのある人の就労が円滑に行われるよう、就労支援の課題・支援方策などについて、「就労ワーキング」や「那覇市障がい者就労支援連絡会」において協議を図る。また、より効果的な協議の場となるよう、ハローワークや一般企業などの参画を図っていく。

### 3. 就労支援に関わる課題等

今年度は、昨年度に開催した「那覇市障がい者就労支援連絡会」においてあがった課題等の中から議題を決めていくことと、コロナ禍でオンラインが多くて、初めて対面での連絡を進めることとした。

また、令和5年度の就労ワーキングの目標として、『多様な関係機関と連携を図り就労事業所とのネットワークをつくる』を意識していくこととし、令和5年度第1回連絡会は、令和4年度の就労支援連絡会で開催した「就労アセスメントについて」と「事業所の横の繋がりを深めたい」という声のお返しとして、講義とその後、事業所間の交流を深めていける時間を設定し対面で、ワークを致します。

### 4. 開催実績

#### 那覇市障がい者就労支援連絡会

- ・第1回 令和5年6月26日(月) 15:00～17:00
- ・那覇市就労支援事業所：99カ所へ案内→39事業所(39名1事業所複数名あり)参加
- ・場 所 : 那覇市IT創造館 2階 大会議室
- ・テーマ : 就労アセスメントについて
- 講 義 : 沖縄県障害者職業センター 障害者職業カウンセラー門川様へ依頼
  - ・沖縄障害職業センターの紹介
  - ・障害者の就労支援におけるアセスメントシート
  - ・アセスメントツールの紹介
- ※ 講義後、グループワーク講義の感想・意見交換  
(グループ分け：①移行 ②就労継続支援A型 ③就労継続支援B型)

#### ≪目的≫

- ・初めての対面での連絡会となり、事業所間の交流を深める。
- ・就労アセスメントについて学ぶ。
- ・就労支援の課題・支援方策などについて協議を図るとともに今後の連携に活かす。

#### ≪内容≫

- ・沖縄障害者職業センターの役割、利用方法について学ぶ



## 資料2

- ・就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援それぞれに共通する就労アセスメントの講義を設け、感じたこと、方法、取り組み等を学ぶ。
- ・それぞれの就労事業所と交流を図り、横の繋がり、ネットワークを構築し、円滑な情報交換、助言等ができる体制づくりを目指していく。
- ・ネットワークを構築し、円滑な情報交換、助言等ができる体制づくりを目指していく。

### ≪講義後の感想・意見について（一部抜粋）※20件回答あり≫

- ・講義の内容について：たいへんよかった 95%
- ・講義時間について：ちょうどよい 90%
- ・グループワークについて：交流できた 100%
- ・交流の場としてとてもいい機会になりました。ありがとうございました！
- ・他事業所の話聞ける良い機会になりました。
- ・グループで話し合う時間がもう少し欲しいと思うくらい、たくさんはなしができてよかった。
- ・アセスメントの見直しをしていきたいと思った。
- ・就労アセスメント、事業所にあった方法を見つけるためにも自分自身の見識を深めて行かなければならないと思う。そのためにもアセスメントの講義は必要だと思います。また、今回は講義のみでなくグループワークがあり、情報交換ができたことはとても良かったです。
- ・他事業所との交流や情報交換がこういう場でできること、とても有り難いです。
- ・久しぶりの対面、楽しかったです！
- ・いつも行っているアセスメントより更に細かく中身の濃いアセスメントがある事を知れてとても勉強になりました。これから現場で活かして行きたいと思います。
- ・事業所交流がしやすいので定期的開催をお願いしたいです。
- ・初めての参加でしたが、いろいろな意見が聞けてとても参考になりました。
- ・アセスメントを細かくとることで、今後の支援や就労につながって行くこと、また、ピラミッド型の説明に出た、土台をしっかりしていくことの重要性を改めて感じた。スタッフ間で、研修内容を共有し、日々の支援に活かしていきたい。
- ・他事業所様独自の取り組みや、困り事等をお互いに話が出来たのかな？と思います。

### 今後取り上げてほしいテーマ

- ・障がい別の特性理解と支援方法、一般就職やA型事業所へのステップアップ方法
- ・利用者への余暇支援、作業内容や工賃向上等。

### 余暇活動について

- ・お昼休みに寛げるスペースとゲームを提供している。
- ・何処までどういうふうに関わればよいのか？また、どのような活動があるのかなど具体的に知りたい。他の事業所の取り組み等も知りたい。
- ・他の事業所でどういった余暇活動をしているのか知りたいです。経営者が余暇活動の必要性に疑問視している。
- ・残存機能を活かした自立課題を見つけ挑戦。ドライブは好きな方が多い。誕生月の方（利用者・スタッフ）で様々なレストランでランチ（外食）など、これから色々検討して行く。

**就労ワーキング**

## 第1回 令和5年9月開催予定

- ①「那覇市障がい者就労支援連絡会」報告
- ②「就労ステップ別 フローチャート」（添付資料2） 関係期間へ内容の確認修正報告など
  - ・就労への思いが出てきた人を取りこぼさず適切な機関に繋げていく事を目的にフローチャートを作成中。 配布先の再確認
- ② 余暇活動の取り組みについて  
就労支援事業所へアンケート調査を行う

**6. 今後の方向性や目標**

就労支援事業所へ顔の見える関係作りを意識し、できるだけ訪問し困り感等の声を拾い上げていく。就労支援事業所間の繋がりや輪・交流の場ができるように、情報共有等による学びの機会を作っていけるよう、実行委員の協力を得ながら就労支援連絡会の開催を継続していく。

## 《具体的な内容》

- ・各ワーキングと連携を図り、実行委員と連携を図り就労支援連絡会の開催等について協議していく。
- ・訪問、アンケート調査等で、就労支援事業所の意見等を収集し、就労支援連絡会の開催へ反映できるようにしていく。
- ・就労がより円滑に行われるように、就労支援の課題、支援方策などについて協議を図っていく。そのためにも就労に関係する各機関の参画を図っていく。
- ・『就労ステップ別 フローチャート』の見直し、配布を進めていく。
- ・余暇活動マップに関する情報収集及びその提供等について検討していく。

## 住まい暮らしワーキング

リーダー：地域生活支援センター Enjoy

### 1. 『なは障がい者プラン』の該当項目

- 基本目標2 施策の方向4 地域移行の推進及び住まいの確保・充実  
具体的施策(1) 地域移行に向けた支援の推進 P.40～  
具体的施策(2) 多様な住まいの確保・充実 P.41～  
を軸に実施

### 2. 住まい暮らしワーキング 開催実績

- ・第1回 令和5年 7月20日(木) 10時～12時 庁舎内 1201Aにて

### 3. 住まい暮らしワーキング 活動内容

出席：地域移行・定着事業所（ひかり、そてつ、ゆいゆい）、自立生活援助事業所（WAN一A）、委託相談、基幹相談、障がい福祉課、地域保健課、南部圏域コーディネーター、南部圏域アドバイザー、南部圏域サーバント

「地域移行・地域定着」についてサービス提供事業所、相談支援事業所などより、現状と課題について意見交換。以下、主な意見を抜粋。

- ・居住の確保や一人暮らしできるという評価をする場所がないという課題がある
- ・長期入院者が地域移行した時に、「部屋の鍵を閉める」「靴を脱いで家に入る」事から伝える支援に入る事もある
- ・本人との関係性構築や本人自身の支援の必要性とのズレが生じた場合の難しさがある
- ・身寄りのない方についての支援体制づくり
- ・病識がない方への医療・治療に繋げるための関わり方、あるいは一度、医療に繋がっても通院の継続が難しい方への関わり
- ・地域生活支援拠点や地域包括ケアシステムの構築

### 4. 地域移行推進連絡会 グループホーム事業所連絡会 開催実績

- 第1回 令和5年 6月19日(月) 10時～12時 庁舎内1001にて  
[参加事業所数] 19か所 ※ グループホーム事業所46か所中

### 5. 地域移行推進連絡会 グループホーム事業所連絡会 活動内容

『なは障がい者プラン』に基づき、事業所間の交流及び意見交換の場として開催している。

開催に際しては、参加申込時にテーマを募り、議題等の参考としている。

≪第1回目≫

初回の顔合わせを行いながら、以下のテーマから普段のサービス提供状況について意見交換

- ・個別支援計画は普段どのように作成しているか
- ・計画相談との連携はどのように行っているか
- ・利用者さんの余暇活動はどうしているか
- ・支援記録はどのように記録しているか
- ・医療機関との連携体制

《今後の連絡会に向けて取り上げてほしい議題やテーマについて（ご意見が多かったものから抜粋）》

- ・虐待防止や権利擁護について
- ・サービスの質向上に向けた法人内での適切な研修実施について
- ・入居時の利用者さんへGHでの暮らし方についてなど説明の仕方、関わり方等
- ・事業所間の連携作り、入居希望者の紹介をできたらいいな
- ・制度や障がい特性、介護に関わる勉強会も開催して欲しい

## 6. 振り返りと今後について

地域推進移行連絡会として、グループホーム事業所連絡会を立ち上げる事ができた。普段、顔を合わせる機会が少ないサービス管理責任者が集まる事で、お互いの事業所で展開されている支援内容や課題について情報交換を行っている。参加して頂いた事業所からも、今後の継続開催や内容についての要望を受けている。

地域移行・地域定着を主なテーマに住まい暮らしワーキングを開催している。サービス提供事業所として地域移行・定着事業所と自立生活援助事業所に参加いただき、現状と課題について意見交換を行っている。

今後について、『なは障がい者プラン』にその都度立ち返りながら、住まい暮らしワーキングから出た意見をもとに、居住体験事業の再稼働について検討を図っていきたいと考えている。また、グループホーム事業所連絡会についても、開催を継続し、より多くの事業所の参加と事業所間のネットワーク構築に努めていく。住まい暮らしワーキングとグループホーム事業所連絡会を通して、地域ニーズを把握し、支援体制構築を目指していく。